



児文研だより

令和6年7月19日

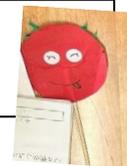
NO. 2

【安西（小倉小）】

令和6年度 第1回授業研究・研修会

研究主題

「主体的に活動し 豊かな人間関係を築く 子どもの育成」
～表現力とコミュニケーション能力を高める活動を通して～



○日時・場所 令和6年7月3日（水）川崎市立金程小学校 2年1組教室

○学年・単元名 第2学年 生活科 「ぐんぐんそだてわたしの野菜」 授業者 浦 綾

○本時の目標 野菜を栽培する活動を通して、これまでの経験やゲストティーチャーから聞いた話をもとに、野菜の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、野菜が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、野菜に親しみをもち、大切にしようとするができるようにする。

授業の様子

導入

自分の鉢で大切に育ててきた大切なミニトマトのことを思ったり、「成長記録メモ」を読み返したりしながら、ミニトマトの成長の過程で一番みんなに伝えたい場面や言葉を考えて「せりふカード」を用意したことを確認しました。そして、それらを6人程度のグループで一つの台本にし、動作化していくことについて全体で確認しました。

台本作り

グループになって、大きな画用紙の上にそれぞれ持ち寄った「せりふカード」を広げながら話し合いを展開しました。伝えたい場面やその理由、伝える順序などについて話し合い、協力しながら台本づくりをしました。迷ったときはミニトマトのペープサートを手に取り、トマトの気持ちになって考えるよう教師からの声かけがありました。

発表

一部のグループが全体の前で発表をしました。たくさん練習して完成された発表ではなく途中段階の発表でしたが、ミニトマトを世話してきた経験をみんなが振り返る良い機会となりました。また、次時の活動の見通しをもつきっかけにもなり、話し合いから表現、そしてまた話し合いという細かなプロセスを経ることで、表現の質を高めるだけでなく、生活科における「気付き」も深める様子が見て取れました。

主題との関わり

以前までのミニトマトを観察するという活動はどちらかというとインプット中心の活動でしたが、今回、行われた台本作りと動作化の活動はアウトプットに重きを置いた活動になりました。グループでの話し合いや全体の場での発表、そしてその先にある動作化を用いた発表は見る側にも表現する側にも、それを通してしか得られない深い学びがあることを感じさせる授業でした。何よりもこの課題を通して、他者との自然な関わりが生まれ、楽しそうに活動する児童の様子がとても印象的でした。



研修会

講師：若狭 美加（児童文化研究会会長）

助言者：千野 隆之（日本劇作の会会長・児童文化研究会顧問）

授業後の研修会では、冒頭に若狭美加先生のファシリテーションで、心ほぐしのゲームを行いました。

【じゃんけんゲーム】→「一斉じゃんけん」「後だしじゃんけん」「相対じゃんけん」など

【お〇〇がでたぞ】→リーダーが言う〇〇をよく聞いて、即興表現する。

その後は児童文化研究会恒例の授業の追体験を行いました。本時の授業と同様に参加された先生方も「せりふカード」にトマトの成長（想像）から伝えたいことを決め、セリフにしました。グループでそれらをつなげ、一つのお話にし、動作化を行いました。話し合いから発表に至るまで、参加の先生方は皆笑顔があふれ、関わりを楽しむ姿が見られました。全体の場で発表するという明確なゴールをもつことによって、協力しながら、一生懸命創り上げようとする先生方の姿が印象的でした。発表会では、グループとグループのつながりにウィンドチャイムを鳴らし、会場内でグループごとにローテーションする形で行いました。スムーズでかつ効率的な発表会のスタイルを体感するよい機会にもなりました。



協議会並びに助言者による指導講評

ゲームと追体験によってすっかり心もほぐれた先生方はその後の協議会でも闊達な感想や意見交換が行われました。実際に子どもたちと同じ体験を行ったことで今回の授業のより深い見取りと検証が行われたように思いました。

助言者の千野隆之先生からは、生活科における演劇的表現活動の位置づけについての話がありました。学習指導要領には「劇化」という表現と共に演劇的表現の重要性が示されていることに触れられ、今回の授業で行われた展開こそが生活科の「気付き」を深めるためにもとても有効であり、その目的を達成させるための手立てがしっかり備わっていたことを強調されていました。また、「劇化」の困難度（ハードル）を下げるための手法として、「穴あき台本」の有用性にも触れられていました。経験の少ない児童にとって、その実態にあった「型」を示していくことで、児童の新たな発想を引き出す呼び水にもなるといったお話もありました。

参加者からのアンケート

- ・トマトの気持ちになって考えるという活動が面白かった。トマトのお世話に身が入るのではないかなと思った。
- ・観察メモをもとに、子どもたちが自らセリフやその前後を作り上げようと話し合う姿が素敵だった。
- ・実際に子どもの立場となり台本づくり、動作化、発表という流れがとても勉強になった。セリフを完成させられなくてもグループの中で助け合ったり、アドリブを取り入れたりして、見る方も舞台に立つ方も子どもの気持ちになり、楽しむことができた。
- ・アイスブレイキングがとても勉強になりました。

お知らせ

○夏期研修会 日時 8月5日（月） 第1分科会：表現活動で生き生き授業 第2分科会：授業からつなげる学芸大会

場所 宮内小学校

○缶詰めになって書く会（脚本を書く会）日時 8月7日（水）8月20日（火）

場所 平間小学校

※ 詳しくは、児童文化研究会研修用 classroom クラスコード rrwtsvw でご確認ください。